市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか?」

人類の誕生

更科　功（武蔵野美術大学教授）

私たち人類は、現在はヒト（学名はホモ・サピエンス）という 1 種しかいませんが、過去には 20 種以上の人類がいたことが化石によってわかっています。このような人類が誕生したのは、およそ 700 万年前と考えられています。このとき、私たちの祖先は、チンパンジーの祖先から分岐して、人類としての進化の道を歩み始めました。

チンパンジーなどの類人猿と人類の違いは 2 つあります。それは、直立二足歩行をすることと牙がないことです。かつては木から草原に下りたために直立二足歩行を始めたという説もありましたが、現在では木の上で直立二足歩行が進化したと考えられるようになりました。

おそらく、その理由の一つは、類人猿の体が大きくなったことです。樹上で暮らす類人猿の体が重くなると、枝が折れやすくなります。そのため、体重を分散させるために、枝の上に二本足で立って、手で他の枝を掴んだ可能性があるのです。

理由の二つ目は、直立二足歩行をする前段階として、幼児のような掴まり立ちの段階があったのではないかと考えられるからです。草原で掴まり立ちをするのは困難ですが、樹上なら楽にできます。つまり、樹上生活をしている動物の体が大きくなると、直立二足歩行が進化しやすいと考えられるのです。実際に、人類が誕生する少し前の 1000 万年前頃に、樹上生活をしながら直立二足歩行をしていたと推測される化石類人猿が何種も見つかったことによって、上述の仮説は支持されています。

人類の 2 つ目の特徴である牙の消失については、草原で直立二足歩行を始めたために手が自由になり、その手で武器を使ったから牙がいらなくなったという説が、かつては人気がありました。初期の人類は肉食であり、獲物を殺すための武器を仲間同士の争いにも使うようになったと考えられていたのです。しかし、直立の足歩行が森林で進化したとすれば、手は枝を掴むのに使われるので、あまり自由になりません。しかも、初期人類が植物食だったことが明らかになったことで、上述の仮説はほぼ否定されました。

現在では、牙がなくなった理由として、一夫一妻が進化したからという説が有力です。一夫一妻では同種内でのオス同士の争いがゆるやかになり、あまり牙を使わなくなるからです。

もちろん一夫一妻といっても厳密なものではないでしょう。たとえば、ゴリラは一夫多妻の群れが多いのですが、多夫多妻の群れも存在しますし、部分的には一夫一妻的な行動も見られます。人類で進化した一夫一妻もおそらくはゆるやかなもので、他の類人猿より少しだけ一夫一妻的な行動が多かったぐらいのものかもしれません。それでも、この一夫一妻的な行動から協力的な行動が派生して、両親以外の血縁個体や血縁以外の個体が共同して子育てをするようになった可能性があります。共同保育が進化したおかげで、人類は他の類人猿に比べて多くの子を作れるようになり、現在の繁栄の礎が築かれたのかもしれません。